

# 吉野町立認定こども園の教育及び保育の基本

吉野町教育大綱 基本理念 「ふるさと吉野への郷土愛、愛着心あふれるひとづくり」

吉野町学校（園）教育の指導方針 園・小・中における育むべき力  
「学び・考え・探求する力」 「個性が輝き、他者と共生する力」  
「健康・安全でたくましい心身」 「地域から学び、協働する力」

## 1 教育及び保育の理念と目指す園児像

子どもは吉野町の宝であり、希望です。

子どもの人生の主演は、子ども自身です。

子どもは人として尊重され（愛され）、自分の意志で人生を歩み、大人は子どもを人として尊重し（愛し）、子どもの歩みを支える役割を担わなければなりません。

子どもの主体性及び自立性を育む教育及び保育を基本とし、次の3つの園児像の実現を通して、すべての子どもたちが愛されることを基盤に『心豊かに未来に向かって生き抜く力』の基礎を育みます。

目指す園児像 ☆わくわく のびのび いきいき☆

- |                    |     |                               |
|--------------------|-----|-------------------------------|
| ① 健やかでたくましい子ども     | 「体」 | 明るくのびのびと行動し、諦めずに最後までやりぬく子ども   |
| ② 心豊に人と関わる子ども      | 「徳」 | 思いやりの心もち、様々な人と心を通わせる子ども       |
| ③ 夢中になって遊びよく考える子ども | 「知」 | 興味関心もち、目的に向かって工夫したり挑戦したりする子ども |

### (1) 乳幼児期にふさわしい環境

乳幼児期の子どもは、自分の生活に密着した直接的かつ具体的な体験を通し、「健全な生活を送るために必要な人としての姿勢（基本的な生活習慣）」「人格形成の基礎となる豊かな心」「物事に自ら主体的に関わろうとする前向きな意欲（興味・関心）」などが培われる時期です。

このため、こども園では環境を通して行う教育及び保育を基本とします。

- 子どもが挑戦することができる環境
- 子どもが力を発揮できる環境
- 友達同士で関わり合い、つくり出す活動が体験できる環境
- 自然体験を通じた実体験が出来る環境
- 身近な人や地域とつながった生活が体験できる環境

(2) 子どもの主体性や自立性「自分になる」過程を尊重した教育及び保育

ア 子どもの主体性や自立性

子どもの主体性や自立性を育む活動は遊びです。遊びは子どもの発達段階に応じて、感性を働かせたり、試したり、比べたり、人と関わる中で不思議な事を発見したり、面白い事に気づくなど、『学び方を学ぶ』活動です。また、乳幼児期に夢中になって遊んだ体験は、小学校以降の『主体的・対話的で深い学び』に繋がります。

保育教諭は子どもの活動を保障するために、教育的な要素を加えた環境の設定や関わりを行うことを基本としています。(環境としての保育教諭)

保育教諭の関わり方

優先度	関わり方	内 容
1	見守り	直ぐには手を差し伸べず、子どもの葛藤の原因を見極め、いつでも援助できるように注視し、見守る。
2	足場かけ	子どもの思いや意思を確認し、状況を整理・確認のうえ、解決策への見通しがもてる援助を行う。(解決策の方向付けはしない)
3	省察・うながし	「どうしたらいいのかな?」「どうなっているんだうね」等質問し、子ども自身、または友達同士で考えるように仕向ける。
4	誘 導	問題の解決を促すヒントを出す。子供が状況を理解できるような言葉かけを行う。
5	教 導	解説や説明を行い、答えを教える。

イ 「自分になる」過程

子どもの発達の姿は、家庭環境や生活経験の違いなどから発達の歩みは一樣ではありません。こども園は異年齢の子どもが集団生活する場ですが、子どもがゆっくりと「自分になる」過程を尊重し、一人一人の発達に配慮した生活ができる環境をつくることを基本とします。

2 教育及び保育の目標

**健やかな体と豊かな心を育み、自分らしくいきいきと活動する園児を育成する。**

乳幼児期の教育及び保育は、人の人生にわたる人格形成の礎をつくるものです。

価値観の多様化、時代の移り変わりのスピードの変化など、子どもがこれからの世界で生きるためには、今まで以上に人として生きる力をつけていく必要があると考えます。

こども園では生活や遊びを通じた豊かな体験、さまざまな人との関わりを通し、次の『5つの領域』とねらいが相互に関連した活動を総合的に実践することで、人としての礎を育み『幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿』につなげていきます。

=5 領域=

ア 健康

健やかな心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくりだす力を養う。

イ 人間関係

他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う。

ウ 環境

周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもって関わり、それらを生活に取り入れようとする力を養う。

エ 言葉

経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に関する感覚や言葉で表現する力を養う。

オ 表現

感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。

『幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿』

ア健康な心と体    イ自立心    ウ協同性    エ道徳性・規範意識の芽生え    オ社会生活との関わり  
カ思考能力の芽生え    キ自然との関わり・生命尊重    ク数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚  
ケ言葉による伝え合い    コ豊かな感性と表現

〈特に礎として育みたい力〉

① 基本的な生活習慣

子どもは保護者や保育教諭など特定の大人との愛着関係を通し、食事・排泄や睡眠などの生活リズムを身に付けます。こども園では保護者と保育教諭の連携のもと、大人のめいっばいの愛情と子どもとの信頼関係を通し、子どもにふさわしい生活習慣を育みます。

② 自己肯定感

子どもは「自分は愛されている」、「自分はやればできる」ということを実感し、自己肯定感が生まれます。こども園の保育教諭はいつでも子どもに愛情をもって適切な援助をすることや、子どもが自分の力を試しながら、主体的に活動に挑戦できる環境の設定を通して、自己肯定感のある人を育てます。

③ 非認知能力

人の能力には、IQ や学力のように数値化できる「認知能力」と前向きな意欲、自尊心、自制心、勤勉性、協調性などのように数値化が適さない「非認知能力」があります。非認知能力は乳幼児期から小学校低学年に特に大きく発達します。人の学びの基礎となる能力で、健康、体力、心、学力など、生涯にわたり大きな影響を及ぼすことがわかっています。こども園では非認知能力を育むことを意識しています。

#### ④ 人と関わる力

子どもが集団生活する環境は、少子化により家庭や地域で子どもが少なくなった現在においては貴重である。子ども同士で「学びあい」「助け合い」時には「ぶつかり合い」をする体験や様々な人との関わりを通し、人と関わる楽しさ、葛藤、挫折感などを経験することで「相手の気持ちを思いやる力」「相手に言葉で伝える力」「相手の話を聞き、言葉を理解する力」が育まれる。こども園では、子ども同士の関わり、保育教諭との関わり、地域の人との関わりを通し、人と関わる力を育みます。

#### 家庭や地域と共に育みます

こども園の教育及び保育は、家庭や地域の人々の理解や協力があってその目標が達成される。こども園では教育及び保育の考え方、日々の子どもの生活など家庭や地域社会の理解と協力が得られるよう情報を発信し、家庭や地域の人々と連携しながら教育及び保育を行います。

#### 目指すこども園像

##### みんなとつながるこども園

- 安全で安心できる園
- 明るく楽しい園
- 保護者や地域とつながり信頼される園